

国際交流員マシアスのコラム ドイツの学校制度



中学校がない!?

ドイツと日本の学校は似ている点もあれば違う点もあります。今回はドイツの学校制度において日本と異なる点についてご紹介します。

皆さんご存知のとおり、日本では小学校が6年間、中学校と高校はそれぞれ3年間と定められていますが、ドイツの場合は中学校がなく、小学校に4年間、そのあと高校に6年間または8年間通います。日本のこの制度は1947年から変わっていませんが、最近ドイツは制度改正が行われ、多くのドイツの州で高校の期間が9年間から8年間に短くなりました。

また、その小さい改正の他に大きい改正がドイツの大学システムにおいて行われています。1999年に初めて29のヨーロッパの国々が大学のシステムを変更し、お互いの制度が同じになるようにしました。そのおかげで、学士と修士を異なる国の大学で取得することが可能になりました。(例えば、ドイツで高校を卒業後、イングラ

ンドで学士を取り、最後にフランスで修士を取得する。)その上、在学期間中に国境を超えて大学を変更することも可能となってきました。

大学入試もない!?

このような地理的な柔軟性に加えて、私が思う日本とドイツの高等教育の最大の違いは、大学に入るための方法だと思えます。日本のような大学入学試験はドイツには全くありません。日本だと大学に入る事がとても大変ですが、ドイツでは一般的に卒業試験が最も難しく設定されています。また、その最後の試験はもちろん重要ですが、最終的な評価は、学生が受けた全てのテストや、在学期間に行った全ての研究によって決定されます。それをまとめると卒業証明書は学生の努力や能力についての長い話を伝える一枚の紙になります。

日本ではより優秀な大学に入ることが大切とされています。それに対し、ドイツの大学は特定の分野で有名なことが多く、ドイツの

学生は勉強したい分野によって大学を選ぶことが多いです。例えばアーヘン大学はエンジニアリング、ケルン大学は化学と経済学で有名です。

シニア大学生

他にドイツの大学の特徴を2つ挙げます。1つ目は授業料です。世界中どこでも大学の授業料は非常に高いですが、ドイツでは社会的地位や文化的背景にもかかわらず、全ての人が高等教育を利用できるように、一般的に大学の授業料は無料となっています。2つ目はシニア学生です。ドイツでは定年退職した後に大学に入学する人が多くいます。彼らは定年退職後も大学に通うことで、物理的にも精神的にも社会とつながりを保ち続けることができます。

このコラムに関連して、今月の国際交流員イベント「マシアスの町遊び」では、ドイツの大学教育に関するシンポジウムを開催します。ドイツの学校制度に興味がある方、もしくはドイツの大学に留学したいと考えている方は、ぜひ参加してみてください。

国際交流員イベント第7回 「マシアスの町遊び」

ドイツ大学教育シンポジウム

ドイツの大学教育に関するシンポジウムを開催し、3人のドイツ人の方に講演をしていただきます。英語での講演となりますが、私マシアスが通訳しますのでご安心ください。

講演者：イェンス・ルツケ氏
.. 機械技師(学士)
カイ・ヴィルツ氏
.. 化学(博士)
トマス・ロメツチュ氏
.. 航空機(マイスター)

内容：ドイツの学校制度(小学校、高校)、ドイツの大学教育、教育と職業訓練、ドイツへの留学

日時：4月10日(金)
午後6時~8時30分

場所：国分寺公民館 視聴覚室
(下野市小金井1127番地)

定員：50名
参加料：無料
申込締切：4月9日(金)

■申し込み・問い合わせ先
下野市国際交流協会事務局
(市役所市民協働推進課内)
☎(40)55805
✉siashimotsuke@gmail.com

携帯電話
市ホームページ

■人口と世帯(3月1日現在)
人口/60,314人(+93)、男性/29,986人(+19)、女性/30,328人(+74)、世帯数/22,651世帯(+68)



PC・スマホ
市ホームページ



TAKE FREE

広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアを募集しています。ご協力いただける場合は総合政策課 ☎0285(40)5550 情報広報グループまでご連絡ください。